カトリック高松教区報

２０２０年5月3日（第１９５号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

昨日は去りました。
明日は
まだ来ていません。
わたしたちにはただ、
今日があるのみ。
さあ、始めましょう。

新型コロナウイルス感染の時節に

今を恵みの時とするために

使徒ヨハネ　諏訪榮治郎

皆さま、新型コロナウイルスの感染は世界の生き方を一変させようとしています。目に見えないウイルスの拡散との闘いにあり、この収束がいつなのか誰もわからない状態です。ある国では感染された方々への献身的な奉仕に携わる医療従事者自身が感染し、医療の崩壊をきたしている状況が見られるのです。

社会が閉鎖され、経済機能が停滞し、刻々と変わる緊急事態の中で、家庭生活や生命が日増しに困難なものになってきているのを見る時、歴史の大変な変革期に遭遇したのだと感じます。私たち一人ひとりがウイルスを拡散させないために、今までとは違うコミュニケーションの取り方、お互いにどのように支えあうことができるのか、理性と知恵をもって日々対応することが求められています。地球という「共通の家」に生きる者として、深く思いを一つにしたいと思います。ウイルス感染の拡散撲滅への対応から、私たちは大切なことを学び、気づきが与えられることによって、よりよい社会へと成長することができますようにと心から願っています。

いま世界の調和を見据える多くの人々や組織は、一人の大統領や独裁者ではなく、人類の連帯・利他性・人類のきょうだい愛を基盤にした生き方を改めて見出しはじめているのではないでしょうか。フランスの歴史学者J・アタリ氏は著書「21世紀の歴史」の中で「個々の勝手な自由」に基づくのではなく、利他主義に基づいた世界を創造する事を呼び掛けています。「私たちは、他者を支えることで幸せになれると気づき、民主主義を超えた新しい生き方がこの世界を救う波となるであろう・・。」と著者は繰り返し語ります。

私たちが互いに奉仕し、「日々の糧（平和・平等・関心・共感・希望・光・励まし・健康・癒し・・）」を分かち、創造しあうことによって、人類は生きていけるのではないでしょうか。状況が悪くとも「今を恵みの時とするために」聖霊の豊かな導きを祈り願いながら、歩んでまいりましょう。いつの日か「神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださった」（創世記50章20節）という旧約のヨゼフの言葉をともにする日をまち望んでいます。

非公開で行われた受難の主日のミサ　於桜町教会

徳島地区「共同宣教司牧」へスタート

徳島地区の司牧宣教ビジョン

年ごとの司教書簡にありますように、当教区は地区、ブロックにおける司祭方のみならず信徒の皆さまのいろいろな分野での「協力宣教」を推し進めております。そのご理解と日頃の協力を通して、次第に定着されてまいりましたことを、心から感謝いたします。

さてこの度、２０２０年度からの徳島地区での新たな宣教構想を紹介させていただきます。それは「共同宣教」と呼ばれる宣教ビジョンで、「宣教司牧チーム」による宣教司牧です。チームはFr乾、Frスティーブ、小山助祭、Br八木であり（チームの責任者はFrスティーブ）、徳島地区の３教会（鳴門、徳島、阿南）を、あたかも一つの教会のように、共同性のうちに宣教活動にあたります。すなわちチームは同じ「教会論」（教会についての理解）や「霊性」（信仰に生きる感性）をもって常に「分かち合える」メンバーが前提となります。

この宣教ビジョンは「わたしの教会」から脱皮し「キリストの教会」へと日々新たにされる刷新を目標としています。司教が派遣した司祭（チーム）との信頼のうちに、その宣教方針に沿った在り方を模索し、互いの連携を強化していきます。養成コース、子供たちの信仰教育、典礼、病床訪問、各行事、評議会など、また信徒名簿、広報など。とりわけ教会事務所をひとつにし、互いの協働、コスト削減のため具体的な方策を考えていきます。

細かい取り決めなどは割愛させていただきますが「新しい革袋には、新しい葡萄酒を」の言葉のように、これまでの歩みに感謝しつつ、新たな歩みを始めて行くことへのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げる次第です。

諏訪司教

はばたき

今や俳句ブーム。ふと手にした俳誌「渋柿」３月号を開いて、カトリック信者と思しい何人かの投句が目に留まった。文豪・夏目漱石と親交を深めた宇和島市ゆかりの松根東洋城が１９１５年に創刊した俳誌。全国にあまたある中で２番目の歴史を誇り、松尾芭蕉に帰依して「心境俳句」の伝統を守り続ける。

フランシスコ教皇の訪日は昨年11月下旬。長崎でのミサの様子を詠嘆した句が秀句に選ばれている。

教皇ミサに並ぶ信徒や冬の虹　妙子

主宰で選者の渡邊孤鷲氏は、俳句甲子園の選者でも知られる。選評の中で教皇の38年ぶり２回目の訪日と核廃絶へのメッセージを称賛。「季語の『冬の虹』が句を一層神秘的にしている」と評している。教皇訪日を喜ぶ句は続く。

教皇の和顔愛語やオリオン座　雪華

教皇がオープンカーで手を振りながら巡回。あの和やかな笑顔で優しく語り掛ける姿が浮かんでくる。

冬晴れに恵まれ教皇来日す　サキ

長崎のミサだろうか。この日は朝から激しい雨。ミサが始まるころピタリと止み、青空が広がった。「冬の虹」と合わせて「これぞ奇跡！」。

冬天に教皇の喝　響きたり　和雄

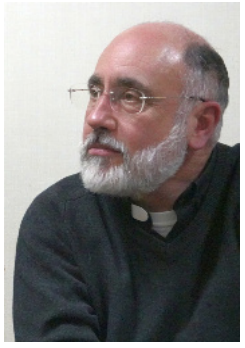
核廃絶のメッセージがあまねく世界へ、と祈っての作か。

聖夜、マリア像、殉教を詠んだ句も並ぶ。自らの信仰生活を詠み、句会で分かち合う。それもまた「社会と共に歩む」〝福音マーケット〟。作句を通して、信仰の恵みや喜びを大いに伝えてほしい。

2020年度　高松教区人事異動

高山徹神父＝坂出教会から丸亀教会・善通寺教会へ（丸亀聖母・善通寺聖母幼稚園チャプレン）
イスマエル神父＝徳島教会から坂出教会へ（聖マルチン病院チャプレン）
オブレート会徳島地区共同宣教司牧チーム＆小山一助祭＝徳島地区教会
デシデリオ・カンバラ神父＝大阪教区から東讃ブロック協働司祭へ（桜町教会）
谷口広海助祭＝西讃ブロック協働助祭へ
R・T・ウィリアム助祭＝教区全般協働助祭へ（ICC関連）
パスクアル神父＝丸亀教会からスペインへ帰国
川上栄治神父＝松山教会から道後教会へ（愛媛地区長）
アントニオ・リー神父＝福岡教区箱崎教会から松山教会へ
トアイ・ピーター神父＝松山教会から福岡教区箱崎教会へ

ネルソン神父からの手紙



アメリカの修道院に移られたネルソン・ウィリアム神父から、昨年、西川助祭に届いた手紙を紹介します（原文は英語）。

親愛なる西川助祭様

お元気ですか。夏が終わり、少なくとも風も和らぐ時季と思います。9月初頭の四国における私の記憶では、朝晩は涼しく感じ、うるさい蝉の声からコオロギの優しい鳴き声に代わるということです。この手紙とともに諏訪司教様へ短いメールを送信しています。何行かでも日本語で書きたかったのですが、修道院における私の生活について、更に詳しく英語で書いた方がより的確な説明になると思いました。日本語で書くにはあまりにも時間がかかるし、修道院においては、ベルの音が次の祈りまたは仕事のために絶えず鳴り響いている感じです。お忙しいとは十分承知しています。更なることをあなたにお願いするのは申し訳ないことですが、諏訪司教様にこの手紙を前もって渡していただければ嬉しいです。

私にとって手紙を書くことは大きな仕事ですが、あなたにとっても読むのに大変とは思いますが、一気に書き上げてみたいと思います。少しずつここの生活についてお話しする方がいいとは思います。今日は私たちが日々何をしているかを思い起こしてみました。わたしたちは日々決められた生活を送っています。

私は今修道院にいます。ほぼ日本と同じように、夏が終わり秋の空気が差し漂っています。この修道院は海抜2000メートルほどの高地にあり、空は澄み切っており、太陽が沈むや否や温度は急激に下がり、その状態は翌朝太陽が渓谷から昇るまで続きます。日中の温度は27度くらいですが、私たちが祈りのために起床する早朝午前3時半、その頃の気温は10～12度です。通常11月に入ると気温は下がり、夜の気温は零度以下になります。

1日の最初の祈りは4時に始まり5時過ぎまで続きます。12の詩編が歌われ、2つの長い朗読があり、一つは聖書から、もう一つは教父たちの書からです。短い合間で、朝の折り、更に6～7の詩編、毎日の読書と祈り、そしてミサへと続きます。すべての詩編そしてミサは歌で唱えます。これらは朝食時間の6時40分まで続きます。朝食はと言えば、なんと1杯のコーヒーだけですよ。静けさと暗闇の中で過ごす祈りの時間は、私たちの一日一日の生活の中心です。

自由時間の後、修道院長と修道士たちは一堂に会し、仕事上の打ち合わせやその日の仕事の割り当てについて話しがあります。その後、8時45分に日中の祈りを唱和して仕事へ出掛けます。志願者や修練士のためには、45分間の修道会歴史や修道会精神のようなクラスを最初にした後で仕事に取り掛かります。今ここには、2人の志願生（内1人は私）と4人の修練者がいます。

仕事は12時40分に終わります。幾人かの修道士は毎日同じ仕事をします。例えば、院長、会計係、図書係、主賓客などです。しかしたいていの人たちは、庭、掃除、洗濯、来客対応、畑、家畜の世話など日々違った仕事です。今のところ私の仕事は畑仕事、掃除、院長の手伝い、羊やロバの世話、ペンキ塗り、料理、その他の仕事です。修道院や来客のお世話をする必要性とともに、実際に生活していく上で、一人一人の手による働き、働かなければ生きていけないことを意識することは大切なことなのです。

午後1時に日中の祈りをして、それから1日のメインの食事を食堂でします。すべての食事時間は沈黙で食べます。みんなが食事をしている間に、修道士たちは順番でテーブルサービスや食堂の片隅に置かれた朗読台から朗読をします。みんなの食事が終わった後で、奉仕者たちは自分たちの食事をします。

メインの食事が午後2時頃終わると、聖堂で午後の（mid・afternoon）祈りがあり、それから午後4時まで休み時間があります。昼寝をする人もいますが、私は自習や読書に時間を使っています。

午後4時になると聖堂に集まり、レクチオ・ディビナ（第1段階・聖書読書、第2段階・黙想、第3段階・祈り、第4段階・観想）を各自でしますが、同じ時間帯の中で共同体づくりの訓練のため、聖堂においてみんなで揃ってします。1日を通して典礼の時間を歌で過ごすのは、私たちにとって最も大切なことです。このあと、30分間程度の聖体礼拝の後、晩課や夕の祈りに続いて、5～6の詩編と読書と祈りがあります。

晩課の祈りの後で軽食があり、30分間の短い休憩後、夜のミーティングがあります。この集いにおいて、聖ベネディクトの会則が読まれ、院長が必要に応じて短い振り返りとお知らせをします。この後、7時30分に聖堂においてその日の最後の祈りが歌われ、そして8時に大沈黙が始まり、1日が終了します。

スケジュールは、その日或いは季節によって若干変更がある場合もあります。（例えば、日曜日に更なる静けさや祈りを含める場合）、しかし基本的には毎日同じく、同じリズムで心の静けさを与え、またそうなるまで神に聞き、神とともに留まることができるように望んでいるのです。祈りの生活と神の探求は、修道院の精神であり、その理由で存在しているのです。同時に、静けさや祈りが修道者や数日間滞在する来客のためにあるだけではなく、全教会のためにもあることを忘れないことが重要なことです。あたかも修道院は、男女を問わず、キリスト者であろうがなかろうが、どこからか静かにまた注意深く高台にある灯台を見つめているような存在です。長年間高松教区において生活し、また働いてきた私にとって、この意味は、四国の地に住むすべてのキリスト信者、司教、司祭、修道者、信徒を特別な方法で見守り、福音宣教という偉大な仕事の継続のために祈っていることを意味しています。

長い手紙で申し訳ありません。次回はもっと短い文章を心掛けます。それまで、皆さんにはよろしくお伝えください。皆さんのためにお祈りしています。

キリストにおいて

ネルソン・ウィリアム神父

ロメオ．T．ベルナベ神父 帰天

2020年3月31日心臓発作のためフィリピンにて帰天
（享年61歳）

1959年6月28日生まれ
1996年6月28日司祭叙階（高松教区司祭）

江ノ口・桜町・新居浜・池田各教会での司牧の後、2012年クバオ教区（フィリピン）ヨゼフ小教区で奉仕するが、2018年頃から体調を崩し療養生活に入っておられた。高松教区では特にフィリピン司牧にあたり、父親のように慕われ、陽気な人情家の神父でした。感謝のうちに永遠の安息をお祈りいたしましょう。

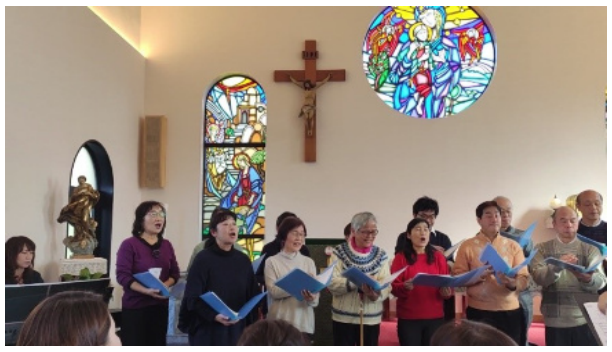
地区・ブロックの話題

～西讃ブロック～ フレンドの日

観音寺教会

観音寺教会（主任司祭ホルヘ神父）が主催する第1回「フレンドの日」が、2月9日（日）AM10時30分～PM1時30分同教会で行われた。

「多くの出会いの最初の出会い」神父様の呼びかけに100名が集まった。この日は朝から肌寒い日であったが、始まる頃はホカホカ陽気になり、教会に係わっている未信者さん・信者さんによる大正琴・混声合唱から始まり、フィリピンの信者さんの歌や踊り、ベトナム信者さんの歌や踊り、最後に当教会の園児も含まれるボーイ・ガールスカウトの方々約30名の歌や踊りが披露された。皆さん自信と誇りと恥ずかしさに満ちていた。



2月14日は聖バレンタインの記念日として有名ではあるがニカラグア・パラグアイなどの国ではお友達・近くの人・仲間らと交友を深めるフレンドの日と言われている。皆さんが教会で交流の輪を広げ、まず、出会う事から始まる。ホルヘ神父の考え方である。

神父の声「さあ、みなさん今から子供たちがお友達カードを持って皆さんの前にきます。お友達カードを受けとってください」会場の大人へ向かった。なかなか進まない、恥ずかしいのである。しかし、勇気のある女の子が前に進み出た「はい、どうぞ、私名前は・・・」それから、どっと、子供たちの波が押し寄せた。

その後、食事会が行われた。当教会の園児のお母さんたちの豚汁に舌鼓を打ちながら一人一人が自分の事を話し、それぞれがそれを聞き楽しい時間を過ごした。

神様ありがとうございました。

（伊予三島カトリック教会議長）

～大正琴を演奏された大正琴サファイアさんから～

こんにちは、大正琴サファイアです。私たちは教会での演奏は初めてだったのでワクワク・ドキドキしながら参加させていただきましたが、すばらしいステンドグラスのおどうで、神父様はじめ多くの皆様の協力で無事に演奏出来ました。国内・外の信徒の若い方達と交流会、豚汁美味しかったです。本当に楽しいステキな時間がありがとうございました。

～松山地区～ 発団50周年を迎え祝福 ボーイスカウト松山第10団

松山教会　森岡源三

松山教会のアクション団体でもあるボーイスカウト愛媛県連盟の松山第10団（竹田光則団委員長・団員33人）は発団50周年を迎えて2月23日の主日、諏訪榮治郎司教司式のミサの中で祝福を受け、なお一層の活動を誓い合いました。

ボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエル生誕祭に合わせた記念行事。制服を身に着けた団員20人とOBや家族らが参加し、前の席に並びました。

諏訪司教が聖水を注いで祝福。説教の中では「自らのスカウト活動の精神が司祭召命の根底にある」と述べられ、命の尊さを訴え、スカウト活動の種まきとなった戦争の記録映画を紹介しながら「人々の幸せのために奉仕してください」と激励。

団委員長の竹田光則さんは「教会に活動拠点を置いて育てられ、50周年を歩んで来ました。支えてくださった皆さんと先輩たちに感謝します。」とあいさつし、会衆から励ましの拍手を受けました。

ミサ後、教会入り口で記念撮影。午後は会場を松山市内のレストランに移して祝賀会を開き、活動を振り返りながら会話が弾みました。

同ボーイスカウトの発団は1970年7月。当時、信徒として少年教育に情熱を注がれた故乗松正則さん、長井恵三さん（元北条教会信徒会長）らがカトリック青少年の健全育成のため、1918年に松山市堀江校区で発足したという少年団「土犬団」の伝統を受け継ぎ、10数名を集めてスタートしました。

その後15周年当時は愛媛県内でも屈指の総勢118人を誇りましたが、90年代以降は教育環境の変化や少子化の影響をもろに受けて減少傾向をたどり、団員の獲得に苦慮しています。特に青少年信徒の団員数は未信者を下回るほどで、竹田さんは「50周年を機に信徒の加入促進に努め、社会に貢献する青少年を育てたい」と話しています。

ダルクに関わり学んだこと

松山教会　岩本麻里子

4年前のことです。ダルク代表・村上亨さんから「私たちの活動のために、教会の部屋を提供して頂けませんか」との要請がありました。当時の松山教会ではダルクのことをあまり知らなかったのですが、評議会は「開かれた教会づくり」を話し合っていた時でもあり、月に1度談話室を提供することになりました。

ダルクとは、依存症を抱え苦しむ人たちが回復に向け、治療しながら自助活動する団体です。既に四国では「香川・徳島ダルク」があり、「えひめダルク」の設立準備が進められている時期でした。開設フォーラムには社会活動委員会の責任者と事務局が参加。活動の具体的な内容を教会の皆さんに伝え、ミーティングの必要性を知らせました。

月1度のミーティングは、やがて毎月1回の家族会（メリーゲート）の場所となり、年1回のセミナー会場としてカトリックセンターを提供しています。教会とのつながりが深まって、2年前から回復に向けた自助グループ作業の一環として、カトリック墓地の清掃を依頼。ダルクでは例会場所提供のお礼だとして、教会広場の樹木の剪定や清掃奉仕をして頂くようになりました。

世話人の1人は「回復には当人の努力が大切ですが、社会の理解が欠かせない」とのこと。支援する側、される側という関係を超えて、お互いが出来ることで支え合い、ともに歩んでいく姿勢が求められていることに気付きました。いつかダルクの仲間たちと〝分かち合いの場〟がもてるようにと願っています。

社会とともに歩む教会をめざして

松山教会は2年前から「えひめダルク」の支援会にも参加しています。毎月の支援会には弁護士、医師と保健所の治療関係者、児童相談所の職員など、治療や活動に手を差し伸べる人たちが集まります。また、ダルクに情状証人や保健所から当事者面談の依頼など、ダルクと共に働いている様子が報告されています。

教会の窓口には、貧困、ホームレス、DV、仕事探しなどの悩みを抱えて相談に訪れる人がいます。でも、教会だけで解決できないことが多いのです。「どう生きていくか」という問題に『イエス様の生き方』を伝えることはもちろんのこと。社会と共に歩むために行政、医療、福祉など外に向かって支え合う関係づくりが大切では…と、ダルクの活動を通して教えられました。

～徳島地区～
餅つき

鳴門教会

新しい年の三が日が過ぎ、クリスマスの片付けも終わり、少し落ち着いた令和2年1月12日（日）例年通り鳴門教会でミサの後、餅つきが行われました。一昨年までは我々で餅を作って食べてきましたが、去年は教会に来るベトナム人が友達も連れてきて一緒に作りました。残念ながら阿南教会のベトナム人が来られませんでした。鳴門のベトナム人によると初めて日本的な餅つきを体験できて楽しかったそうです。

今年は、阿南教会から、ブラザー八木とベトナムの方たち10人余りが参加されました。特にカトリック信者じゃない人が多かったです。去年からは三臼になり、掛け声と共に、きなとりは神父様。女性はもち米をせいろで蒸し、餡を丸め、豚汁を作り、もろぶたに餅とり粉をまき、つきあがってくる餅を待つ。

餡餅と白餅、一人4個、それに豚汁。やっぱり杵つき餅はおいしいと、また、ベトナムの餅作りと違っていて驚いたそうです。

ベトナムの男性が、「神父様のうた」、「お母様のうた」をギター演奏で歌い、みんな聞き入り、会議室は若い人たちで活気にあふれていました。

餅と豚汁の食事会

◇◇教区スケジュール◇◇

5月
- 3日（日）復活節第4主日
- 4日（月）みどりの日
- 5日（火）こどもの日
- 6日（水）振替休日
- 10日（日）復活節第5主日
- 14日（木）聖マチア使徒
- 17日（日）復活節第6主日「世界広報の日」
- 20日（水）田中英吉司教命日
- 24日（日）主の昇天
- 31日（日）聖霊降臨の主日

6月
- 7日（日）三位一体の主日
- 11日（木）聖バルナバ使徒
- 14日（日）キリストの聖体
- 19日（金）イエスのみ心
- 28日（日）年間第13主日「聖ペトロ使徒座への献金」
- 29日（月）聖ペトロ　聖パウロ使徒

LINEで分かち合い

阿南教会　松本良子

新型コロナウイルス感染拡大が勢いを増し、全国に緊急事態宣言が発出されるなど国をあげての防止策がとられています。高松教区でも聖週間のミサが非公開となったのを始め、多くの小教区で公開ミサが行われていません。

そんな中での取組紹介として、阿南教会から「スマートフォンでの分かち合い」、松山教会から「ミサ非公開と周知」にまつわるおたよりをいただきました。

新型コロナウイルス感染拡大感染予防のために、信者にとって一番大切なミサが奪われることになり、一同が集まっての祈りも出来ず、個人での祈りもままならない状況の中で、毎日流れてくる感染拡大のニュースに不安が募るばかりです。

教会に集えないこんな困難な時こそチャンスと捉えよ！の言葉に私たち阿南教会では、信仰を深めるために何かできないものかと考え、みんなが持っているスマートフォンを使ってLINE（ライン）によるグループビデオ通話で聖書の分かち合いや十字架の道行きの祈りをやってみようと、さっそく取り組みました。

聖書の分かち合いから、神様の深い愛を感じ取り、又気づかせてもらい、力をいただく会だけに、信仰を深めることができると喜んで参加させてもらいました。

スマホの画面に参加者の顔が次々に写ると思わず「元気ですか？」と手を振って声をかけると「ごっつい元気ですよ～。」の受け答えに、みんなで大笑い…顔を見て話せるって良いことですね！

最初は電波が届きにくいので場所を変えたり、ゆっくり読んだり、マイクに近寄ったりと試行錯誤しながら聖書の分かち合いが始まりました。ラインでつながっているならと昨年愛知県に転出した姉妹にも声をかけ、一緒に聖書の分かち合いの会や、金曜日には十字架の道行きの祈りにも参加してもらっています。

転出してもずっとつながっていることを喜び合いながら、共に祈ることのすばらしさを改めて実感しています。

私たちは今、聖堂に集うことは出来ませんが、神様のもとに一つに結ばれています。共に祈り合いながら神様にしっかりと向き合って家庭の中で、地域の中で、出会う人々の中で、日々愛の実践に努めたいと思います。

みんなが一同に集えない聖堂の庭には、チューリップの花がみんなの帰りを待つかのように咲き誇っています。

早くコロナウイルスが終息し、大好きな聖堂でみんな揃って笑顔いっぱい感謝の歌をうたいたいものです。

神様には何ひとつ出来ないことはないと信じています。一日も早い終息をみんなでお祈り致しましょう。

異例ずくめで大慌て

松山教会　森岡源三

「ミサ・集会禁止」の通達を最初に受けたのが、四旬節第2主日の3日前。しかも〝全信徒周知〟という異例ずくめに、司祭団と事務局は慌てふためきました。

評議会、各委員会、各活動グループ、趣味の会など連絡網でのメール配信から電話連絡・FAXへとつないで周知。「隣人にも伝えて！」との伝言依頼が功を奏してまずまずの周知率でしたが、知らずに数人来られたことを反省し、今後に生かします。

松山教会区域では3月中旬にも感染者が出て間もないため、ミサ再開は受難の主日からと決定・周知しました。ところが3月末日、同市で葬儀に参加した人たち4人の集団感染が発生。教区から「過ぎ越し3日間のミサ非公開」との知らせに、また急いで周知。信徒は家庭で祈りを捧げるという、試練の聖週間となりました。

4月に入っても愛媛県では断続的に感染者が確認されており、予断を許さない状況。1日も早い終息と、ミサの再開を祈るばかりです。

子どもと女性をまもる委員会

聖職者による性的虐待

相談窓口

電話番号：087-831-6659

相談窓口受付時間
月曜日から金曜日（祝日除く）
午前9時～午後5時

高松教区対応チーム

お詫びと訂正

高松教区報194号4ページの「小豆島のクリスマスキャロル」記事中に「小豆島教会　濱田麻里子」としているのは誤りで、正しくは「小豆島教会」です。お詫びして訂正いたします。

教区広報から

教区広報委員会では、教区報・インターネットで教区内小教区の情報を幅広くお伝えしていきたいので、皆様からの情報提供をお待ちしています。小教区の広報誌・新聞などに掲載された記事も歓迎です。各地区の広報委員を通じて教区広報に情報をお寄せください。新型コロナウイルス感染拡大に伴う工夫などの話題もお待ちしています。